

平成 30 年 11 月 2 日

京口門だより No. 61

前回の「京口門だより」で歯周病について少し触れました。歯周病の名を昔は歯槽膿漏(しそうのうろう)と呼んでいました。また漢方医学では古くは骨槽風(こっそうふう)などと言っていました。7~8年前の調査では日本人の7割に歯周病の症状があることが分り、最近では注意を呼び起こすためか、さかんに耳にしたり目にとまるようになりました

歯周病は口腔内の手入れがおろそかになり、歯石やプラークがたまり、そこに歯周病菌などの細菌感染によって慢性的な炎症が起こり、口臭、歯ぐきの腫れ、しみたり痛みなどをきたし、悪化すると出血したり、化膿して歯が抜けてしまうこととなります。高齢者の主な歯を失う原因とされています。

この歯周病が歯や歯ぐきに限られた病気であれば、さほど問題にならないのですが、実は全身的な病気の背景になっていることが分かってきました。

たとえば、糖尿病と歯周病は深く関わり、歯周病があると糖尿病の状態が進行し、歯周病の治療によって糖尿病の改善がみられるとのこと。また歯周病の悪化で歯が抜けてしまうことによって、狭心症や心筋梗塞が起こりやすくなり、動脈硬化を進行させたり、脳こうそくも起こしやすくなると言われています。また高齢者は誤嚥性肺炎を起こしやすくなり、妊娠女性も歯周病があると早産や低体重児出産につながると言われています。そして歯周病のある人はない人と比べて癌の発症率が高くなるという報告もされています。

そうなる歯周病は生活習慣病の一つとして、肥満や喫煙などと同じように平生から十分にケアしなければなりません。進行した歯周病では歯科や口腔外科の治療が必要となります。

この前にも述べましたが、われわれの漢方治療でも比較的初期の歯周病には生薬を主とした歯ぐき用の歯磨きがあり、これを使っておられる方は歯医者さんからほめられたという声も聞きます。歯ぐきが腫れたり、出血したりした状態では炎症をおさえ、化膿をなおす働きのある桔梗という生薬を含んだ漢方薬もあります。慢性化してしまった場合でもいくつかの漢方薬があり効果があります。高齢化社会では歯周病への対処が大切となります。

